

平成30年11月16日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立千里新田小学校
校長 有明 志郎

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数と理科に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

報告の中の矢印は全国平均との関係を表している。

全国の正答率を上回る	↑
全国の正答率をやや上回る	↗
全国の正答率とほぼ同じ	→
全国の正答率をやや下回る	↘
全国の正答率を下回る	↓

1. 教科に関する調査結果の分析

● 国語《概要》

◎ 国語A『主として知識』

全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◎ 国語B『主として活用』

全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

○ 国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと・聞くこと A ↗ B ↑

知識：ほぼすべての項目において、全国の平均正答率をやや上回る良好な結果であった。

活用：全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

書くこと A ↗ B ↗

知識：全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全国の平均正答率をやや上回る良好な結果であった。↗

読むこと A ↗ B ↑

知識：全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

言語事項 A ↗

知識：ほぼ全ての項目において、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◇指導改善のポイント

- ・ 他者の意見に対して、自分なりの考えを持ち、それを表現する力を育てる。
- ・ 一定の時間内に文章を読みとったり、考えを書いたりする力を育てる。
- ・ 無回答率が全国と比較して高いので、様々な学習活動の中で、自分の考えを自信をもって伝えられるように支援していく。
- ・ 文脈に即した漢字を使えるように、漢字の意味を理解させる指導や、漢字に興味を持って自ら日常の作文・日記などで活用できるように取り組む。
- ・ 読み取った内容と関連づけて、自分の考えを表現する活動を取り入れていく。
- ・ 目的や意図に応じて、条件に合わせて自分の考えを短くまとめたり、詳しく書いたりできるように取り組む。
- ・ すべての学力を下支えする言語能力を高めるための読書量を、学校でも家庭でも増やしていきけるように取り組む。

●算数《概要》

◎ 算数A『主として知識』

ほぼ全ての項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◎ 算数B『主として活用』

全て全国の平均正答率をやや上回る良好な結果であった。

○算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算 A↑ B ↗

知識：ほぼ全ての項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であったが、小数の除法の意味の理解に課題がみられた。

活用：全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、示された考え方を解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、言葉や数に表現することに課題がみられた。

量と測定 A ↗ B ↗

知識：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

図形 A↑ B↑

知識：ほぼ全ての項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

数量関係 A↑ B ↗

知識：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であったが、一部無答率が高かった。

活用：全国の平均正答率をやや上回る結果であったが、メモやグラフを読み取ることや、細部に注目して読むことに課題が見られた。

◇指導改善のポイント

- ・ 図や数直線などに表すことで問題場面の数量の関係を的確に捉えて立式したり、問題場面と数直線を式と関連付けたりすることが出来るようにする。
- ・ 乗法や除法の意味について理解できるようにする。
- ・ 言葉・数・式・図・表・グラフといった数学的表現の方法を用いられるように、指導の工夫を行う。
- ・ 日常的に説明する活動に取り組み、友だちを互いに意識しあった「学び合い」学習に取り組む指導の工夫を行う。

●理科《概要》

◎ 『主として知識』

全て全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◎ 『主として活用』

ほぼ全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

○理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

物質 →

知識：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

活用：全国の平均正答率と同等の結果であった。

エネルギー ↑

活用：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

生命 →

知識：全項目について、全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

活用：全国の平均正答率をほぼ上回る結果であった。

地球 ↑

知識：全項目について、全国の平均正答率をやや上回る結果であった。

活用：全項目について、全国の平均正答率を上回る良好な結果であった。

◇指導改善のポイント

- ・ 人の腕などの模型やその他の実験器具の適切な扱い方、さらにそれらを使うことからわかることなどを、それぞれの実験等の中で丁寧に理解を促しながら取り組む。
- ・ 観察・実験を行う際には、その「予想」、「観察・実験」、「結果」、「考察」、「結論」を、筋道を立てて考え、ノート等にまとめる活動を今後とも進めていく。
- ・ またその際には、より妥当な考えを構築するために、複数の実験を計画しその結果をもとに分析・考察したり、それらを適切に文章で表現するような活動にも取り組む。

2. 生活習慣や学校環境等に関する調査結果の分析

●全体の概要

◎自分自身のことについて

3つの項目すべてにおいて肯定的な回答が多いが、全国平均と同じか下回っている。

◎家庭生活・地域生活について

家庭生活については、肯定的な回答が多いが、全国平均とほぼ同じか下回っている。

地域生活については、6つの項目すべて全国平均を下回っている。

◎学校生活・学習について

学校生活についてはほぼ全員が「いじめはいけない」と回答しており、全国平均を上回っているが、2項目については、全国平均を下回っている。

学習について「観察や実験を行っている回数」は全国平均を上回っている。そのほかの質問については肯定的な回答の割合は全国平均を下回っている。特に説明する、発表する、考察する項目が全国平均を大きく下回っている。

●各領域の詳細

自分自身のことについて

「人の役に立つ人間になりたい」と9割5分が回答しており、全国平均と同じである。「将来の夢や目標を持っている」は約8割、「自分にはよいところがある」は7割5分で、全国平均を下回っている。

家庭生活・地域生活について

(家庭生活)

「朝食を毎日食べている」約9割5分「毎日同じ時刻に起きている」約9割で全国平均とほぼ同じである。「毎日同じ時間に寝ている」は約7割いるが、全国平均を下回っている。

「家で学校の宿題をしている」は9割5分以上で全国平均とほぼ同じだが、「家で計画を立てて勉強をしている」約6割「家で学校の予習・復習をしている」約5割「家で教科書を使いながら学習している」約6割5分「学校の授業時間以外に、30分以上勉強する」約8割で全国平均を下回る。

放課後や休みの日は、「家で勉強や読書をしている」と回答した児童が5割以上、「家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたりインターネットをしたりしている」と回答した児童が、約7割5分いる。放課後は約7割5分の児童が友達と遊んでおり、休日は約8割の児童が家族と過ごしている。「家族と学校のことを話している」児童は約8割で全国平均とほぼ同じである。

1日あたりの読書時間については「10分以上」が約7割いる。週に1、2回新聞を読んでいる児童は約2割であるが、一方、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」という質問には8割5分以上がよく見る・時々見ると回答していて、全国平均とほぼ同じである。

(地域生活)

地域の出来事に関心がある児童は約6割いるが、地域の行事に参加している児童は約4割5分で全国平均に比べて少ない。

学校生活・学習について

(学校生活)

「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と回答している児童は9割8分で全国平均を上回っている。「学校のきまりを守っている」約8割5分、「先生は自分のよいところを認めてくれている」は約8割で全国平均を下回っている。

(学習について)

算数では、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」は8割以上が肯定的な回答で、全国平均とほぼ同じである。「算数の勉強は好き」が6割、「算数の勉強は大切」は9割「内容はよく分かる」は8割「学習したことは将来的に役に立つ」は約9割が肯定的な回答だが全国平均をやや下回っている。「問題を解くとき、もっと簡単に解く方法を考える」約7割「公式やきまりのわけを理解するようにしている」7割5分「学習したことを生活の中で活用できないか考える」約5割「問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える」は6割以上肯定的な回答だが、全国平均を下回っている。

理科では、「観察や実験を週1回以上している」と5割5分以上が回答しており、全国平均を大きく上回っている。「観察や実験を行うことは好き」は8割以上、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたい」は2割5分以上が肯定的な意見で全国平均とほぼ同じである。「理科の勉強が好き」7割、「理科の勉強は大切と思う」7割5分、「内容はよくわかる」8割で、全国平均を下回っている。「授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える」約5割、「自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている」6割、「観察や実験の結果から分かったことを考えている」6割5分、「観察や実験の進め方や考え方が間違っていないか振り返って考える」約5割、「理科の授業がおもしろいと思った」約5割が肯定的な回答だが全国平均を下回っている。

全体的には、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」は7割以上「自分の考えを発表するときは工夫して発表していた」は肯定的な回答が6割以上で全国平均とほぼ同じである。「社会や自然のことがらについて不思議、おもしろいと思う」は7割5分「学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」は肯定的な回答が6割以上で、全国平均を大幅に下回っている。

◇今後の指導について

生活や学習の場面で友達同士が関わり、協力し合う取り組みを通して、それぞれの良さを発揮する場面を作り、自己有用感や自尊感情を育てていく。

「めあて・課題の確認→自分の考えを書く→意見を交流する→わかったことや考えをまとめる」という授業の流れが定着しつつある。さらに、ねらいや目標を明確にし、自分で課題を見つけて発表したり、自分の考えをもって話し合う活動をしたりすることで自分自身の学びや表現力の向上、友達と学び合うことの良さが実感できるようにしていく。また、学習習慣の確立や主体的に取り組む力、自学自習の力を育成していく。

本校の6年生児童は学力学習状況調査において、全体で全国を100としたら、108.3 吹田市の107 大阪府の96.7よりもよい数値である。学力は高いと言っても過言ではない。

しかし、学校の存在を根幹から揺るがすような大きな問題項目がある。現時点ではそれがどこに起因するものなのか言及することは難しい。今後も年度末の「学校アンケート」も含めて、じっくり考えて取り組んでいきたいと考える。以下が、その項目である。

- ① 「自分には、よいところがあると思いますか？」
本校 74.4% 大阪府 81.3% 全国 84%
- ② 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか？」
本校 81.6% 大阪府 84.5% 全国 85.3%
- ③ 「将来の夢や目標を持っていますか？」
本校 78.2% 大阪府 83% 全国 85.1%

はたして、本校は、家庭は、地域は、自分のよいところを自信をもって発表し、将来の夢を希望をもって語ることができ、自立して前向きに生きていける、そんな子どもたちを育てていないのか？

大人に突きつけられたこの課題を、3月までに、絶対に解決していきます。必ず！

千里新田小学校 校長 有明志郎

